



話題提供へのコメント：

非認知能力の教育という視点から

篠原郁子（国立教育政策研究所）

東京大学Cedep・凸版印刷株式会社 共同研究シンポジウム
指定討論資料 （2021年2月26日 オンライン開催）

教育の視点からのコメント

●利根川先生からの話題提供（web意識調査の結果）

家庭の保護者の声：「何をしてよいか分からない」

非認知能力の教育について丁寧に議論し、示していく必要がある

●教育の目標を大きな視点から考えると…

認知も非認知も両側面をバランス良く備えた、
全体としての子どもの育成（OECD,2015）

⇒「認知／非認知」という分類が、万一、子どもの姿や活動の「分解」
「分割」につながってしまうと本末転倒ではないだろうか

「非認知能力の教育」への期待

- 「認知能力」と「非認知能力」は、性質、学び方、身に付け方が異なる可能性があるのではないだろうか
- 非認知能力について、知識の習得、トレーニングは一部の場面で効果があっても、日常生活に及ぼす影響は限定的
(国立教育政策研究所, 2017)
- 今後、**非認知能力ならではの身に付け方・学び方、育み方**の模索が新しい教育方法の展開につながることを期待される

Q：話題提供の先生方への質問：

非認知能力ならではの身に付け方、学び方、育み方にはどのようなものがありそうでしょうか？ 大人から子どもへの**フィードバック**には、どのような工夫が考えられそうでしょうか？